■昭和17年から20年　勤労報国隊・援農学徒隊・挺身隊の記録年表

【 常呂村で勤労・援農した学校 】
※中学校:網走中学校（3回）・北見中学校（2回）　（2校）
※農学校:宮城県小牛田農林学校・福岡県築上農学校・静岡県中泉農学校
東京農芸学校・新潟県安塚農学校・山形県庄内農学校　（6校）
※その他の学校:秋田鉱山専門学校・札幌光星商業学校　（2校）
※大学:法政大学・北海道大学・山形師範学校　（3校）　計13校

【 常呂村からの挺身隊・勤労報国隊 】
※炭鉱:石炭確保挺身隊:別保（釧路町）　製炭確保報国隊:雄別（阿寒町）
勤労報国隊:イトムカ（留辺蘂町）　勤労報国隊:夕張
※挺身隊・女子挺身隊:女満別
※行き先不明あるいは期間の挺身隊:5回

■昭和17年（1942）

月日・期間	項　　目
	＊勤労報告隊：旧阿寒町・雄別炭鉱（製炭確保報告隊）
12月	高等科を卒業して、12月に勤労報告隊で釧路の雄別炭鉱に行き、採炭夫として3ヶ月くらい働いた。今なら、16～17歳の若い人が坑内に入ることはないが、自分だけが中に入れられて発破の爆風が恐ろしかった。 （豊川区百年記念誌:可児直喜）

■昭和18年（1943）

月日・期間	項　　目
	＊石炭確保挺身隊：現釧路町の別保炭鉱
1月9日	午後3時より常呂神社で石炭確保挺身隊壮行会、隊員10名（当直日誌）
1月10日	午前6時40分発の列車で出発（当直日誌）＊現釧路町:別保炭鉱
2月13日	村長・書記が石炭確保挺身隊慰問のため11時8分の列車で出張（当直日誌）
4月1日	石炭確保のため別保炭鉱に派遣中の挺身隊員一行10名が全員無事帰村、炭鉱の飯場長が同行（当直日誌）

	＊宮城県小牛田農林学校援農部隊：日吉・登・吉野・福山地区
6/24-7/26	日吉地区に宮城県小牛田農林学校生徒37名が援農部隊として入地、各家庭に分宿（日吉小学校沿革史）
	援農部隊38名一行が10時30分着。即時、日吉へ臨時貸切バスで日吉へ向かう（当直日誌）
7月26日	宮城県農林学校援農生徒が午後3時8分発の列車で退村（当直日誌）
	＊平成6年（1994）6月、当時の生徒16人が、援農先だった日吉・吉野・登・福山を訪れ、受け入れ先の農家と旧交をあたためた（広報ところ掲載）

	＊福岡県築上農学校学徒勤労奉仕隊：土佐地区
8/6-10/2	学徒勤労奉仕隊として福岡県築上農学校生徒が入地（土佐郷土史）
8月6日	午前10時30分福岡県築上農学校生徒40名着、11時より受入式（当直日誌）
10月2日	福岡県築上農学校生徒の学徒勤労奉仕隊解散式。前日、市街地女性団が演芸の慰問を議事堂で行う。午後6時40分の列車で帰郷する（当直日誌）

	＊静岡県中泉農学校勤労奉仕隊：日吉地区
8月9日	午後6時10分着の列車で静岡県中泉農学校生徒35名、教師1名が援農で来村、議事堂で1泊（当直日誌）
8月10日	6時30分、日吉地区に静岡県中泉農学校生徒勤労報国隊35名、鈴木裕哉教諭引率が入地、各家庭に分宿（日吉小学校沿革史）
9月8日	午前8時半より日吉小学校で解散式、原村長・部落有志・受入父兄多数列席盛会、11時半臨時バスで出発（日吉小学校沿革史）
9月8日	午後1時半、漁業会で静岡県中泉農学校生徒一同の解散式、慰労会午後3時15分出発（当直日誌）

	＊東京農芸学校勤労奉仕隊：共立他複数地区
8月13日	東京農芸学校生徒28名、教諭1名の援農部隊受入式。午前10時36分列車で到着。神社参拝後、議事堂で受入式・昼食、その後各部落に配当（当直日誌）
8/13-11/5	学徒勤労奉仕隊として東京都立農学校生徒が入地（土佐郷土史）
10月11日	東京農芸学校援農部隊の慰労会を共立で開催（当直日誌）
10月15日	東京農芸学校援農部隊が午後3時16分の列車で帰還する（当直日誌）

	＊北見中学校勤労奉仕隊：土佐地区・岐阜地区
8月17日	北見中学校生徒援農隊が午後2時36分到着（当直日誌）
8/17-8/26	学徒勤労奉仕隊として北見中学校生徒が入地、刈り取り作業（土佐郷土史）
8月26日	北見中学校勤労奉仕隊が10日間の勤労を終え、午前11時の列車で退村町内会、部落民、役場吏員一同で見送る（当直日誌）
	＊岐阜地区:河野久子さんの別途掲載の日記を参照

	＊新潟県安塚農学校勤労奉仕隊：土佐地区
10月5日	午後2時36分着列車で新潟県安塚農学校勤労奉仕隊到着。教師1名、生徒30名、村民多数出迎え。常呂神社参拝後、議事堂で各家庭に割当、午後5時終了（当直日誌）
10/5-11/5	学徒勤労奉仕隊として新潟県立安塚農学校生徒が入地（土佐郷土史）
11月5日	新潟県安塚農学校農業勤労奉仕隊30名が勤労奉仕終了。本日、午後3時40分発の列車で帰郷（当直日誌）

	＊東京法政大学学徒勤労奉仕隊
10月21日	東京都法政大学学生50名、引率が学徒勤労奉仕隊が午前10時36分着 ＊「土佐郷土史」では、受入期間を10/13-11/18としているが間違い
11月17日	豊川で援農部隊懇談会、村長・書記出席（当直日誌）
11月18日	法政大学援農部隊解散式、午後3時13分発列車で退村（当直日誌）

	＊派遣先・業務内容不明を含む勤労報国隊・挺身隊の時系列状況
10月7日	勤労報国隊の打合せを議事堂で網走職業指導所主催で開催（当直日誌）
10月8日	午前6時半、常呂神社で勤労報国隊結成式を挙行（当直日誌）
10月27日	神社で勤労報国隊出動者の壮行会（当直日誌）
10月28日	勤労報国隊出動者が午後3時13分出発式（当直日誌）＊イトムカ
10月31日	午後3時、常呂神社で勤労報国隊結成式（当直日誌）
11月11日	勤労報国隊出発式（女満別）（当直日誌）
12月12日	午前11時8分、勤労報国隊女満別へ出発 午後2時30分、勤労報国隊が女満別より帰還（当直日誌）
12月14日	勤労報国隊が留辺蘂イトムカより帰還、午後6時常呂駅着（当直日誌）
12月16日	勤労報国隊が午前6時33分、常呂駅発（当直日誌）＊行き先不明
12月28日	女満別挺身隊が交替のため帰村（当直日誌）
	＊女満別が2回、留辺蘂イトムカ鉱山が1回は判明　＊行き先不明1件 ＊女満別は「飛行場」に関係している可能性あり

■昭和19年（1944）

月日・期間	項　　目

	＊石炭確保挺身隊：行き先不明
1月10日	大友孫右衛門石炭確保挺身隊として出発（共立百年史）

	＊懇談会だけで実施には至らなかった可能性大
5月28日	美幌農林学校援農隊懇談会、常呂小学校で午前11時半より（当直日誌）

	＊網走中学校援農勤労奉仕隊：豊川・日吉・共立
7月1日	11時30分より議事堂で網走中学校援農隊受入式（当直日誌） 援農学徒来る（共立百年史）
7月5日	網走中学校援農隊の受入式を議事堂で行う（当直日誌）
7月18日	網走中学校援農学徒の集合慰問のため、村長が豊川・日吉へ出張（当直日誌）
8月25日	網走中学校援農部隊解散式、午前9時より10時30分、会議室（当直日誌）

	＊行き先・内容の短期勤労報国隊
7月29日	援農学徒受入打合せ（農業会、土佐・共立・豊川各会長）（当直日誌）
8月1日	援農隊の受入式を議事堂で行う（当直日誌）
8月3日	村長室で援農出動に関する打合せ（当直日誌）
8月5日	短期援農第1日目（当直日誌）
8月10日	勤労報国隊短期援農終了（当直日誌）

	＊北海道大学学徒勤労奉仕隊
8月27日	北大予科学生援農隊の受入式を議事堂で行う（当直日誌） 豊川部落会長及び実行組合長来場（当直日誌）
9月25日	北大予科学生援農隊が午後6時40分の列車で帰郷する（当直日誌）

	＊山形県庄内農学校勤労奉仕隊
8月14日	山形県庄内農学校生徒の援農部隊受入式（当直日誌）
8月19日	第二次援農に関する協議会（当直日誌）
9月22日	山形県庄内農学校生徒の援農生9名到着（当直日誌）
9月25日	山形県庄内農学校の先生以下援農生36名が慰安のため1泊する（当直日誌）
9月26日	山形県庄内農学校生徒の援農部隊約50名、議事堂に宿泊する（当直日誌）
11月7日	山形援農生47名、午後6時より議事堂で解散式、午後8時終了。議事堂で宿泊する（当直日誌）
	＊正確な記録は無いが、庄内農学校の勤労奉仕隊は交代制で2回来村した可能性がある。

	＊網走中学校援農勤労奉仕隊：
9月1日	午前11時、網走中学校生徒援農隊受入式（当直日誌）
9月5日	常呂小学校で援農隊員（網走中学校生徒）の教練実施（当直日誌）
9月25日	網走中学校援農生が午後3時13分の列車で帰郷する（当直日誌）

	＊期間不明の勤労報国隊
8月19日	夕張行き勤労報国隊が午後6時48分の列車で出発（当直日誌）
10月18日	中湧別へ勤労報国隊が午後2時30分発のバスで出発（当直日誌）
10月24日	午後1時半より3時、村長室で勤労報国隊出動に関する打合せ（当直日誌）

	＊秋田鉱山専門学校援農勤労奉仕隊：
10月9日	秋田鉱山専門学校援農生44名来村（当直日誌）
10月31日	午後5時、議事堂で秋田鉱山専門学校援農学徒解散式（当直日誌）

	＊札幌光星商業学校援農勤労奉仕隊：常呂鉱山
11月10日	常呂鉱山の学徒勤報隊の受入式、委員室で午後3時より（当直日誌） 札幌光星商業学校援農学徒
12月7日	午後6時半、札幌光星商業学校援農学徒退村（当直日誌）

	＊網走中学校援農勤労奉仕隊
9月1日	午前11時より網走中学校援農生受入式（当直日誌）
9月8日	網走中学校援農隊、常呂小学校で教練実施（当直日誌）
10月1日	網走中学校援農学徒56名受入（当直日誌）
11月7日	網走中学校生徒59名、援農受入式、教諭2名引率（当直日誌）
11月9日	網走中学校生徒援農隊受入式（当直日誌）
11月10日	午前11時より委員室で国力鉱山勤労隊受入式（当直日誌）
12月6日	11時8分の列車で援農学徒退村（当直日誌）
	＊受入式の記録は多数あるが、終了・退村の記録は1回のみ ＊北見中学校と同様、国力鉱山での勤労の可能性がある

	＊北見中学校学徒勤労報国隊：国力鉱山
12月10日	午後2時半から4時まで議事堂で国力鉱山学徒勤労報国隊受入式（当直日誌） ＊北見中学校
12月27日	午前10時、議事堂で国力鉱山勤労報国隊（北見中学校）解散式（当直日誌）

	＊製炭確保報国隊：旧阿寒町の雄別炭鉱
12月13日	雄別炭鉱行き製炭確保報国隊員4名出発（当直日誌）
	＊堀口清一さん（富丘）が「富丘百年史」で「顧みて」という文に、17歳の時勤労挺身隊として雄別炭鉱に徴用されたことを書いている。 ＊昭和20年の「当直日誌」がないので、期間は不明

	＊行き先・期間・内容不明の女子挺身隊
8月31日	短期女子挺身隊員出動、浜本以下10名（当直日誌）
11/22-23	議事堂で女子挺身隊選抜を行う:網走動員署総務係（当直日誌）
12月17日	午後7時より委員室で女子挺身隊員・原敬子送別会開催（当直日誌）
12月18日	午後3時、原敬子・女子挺身隊員として出発（当直日誌）
	＊昭和20年の「当直日誌」がないので、期間は不明

■昭和20年（1945）

月日・期間	項　　目

	＊山形師範学校学徒勤労報国隊：岐阜・日吉
春	昭和20年春、援農に入った旧山形師範学校の卒業生一行が昭和62年9月8日常呂町を訪れ、当時受け入れた農家の人たち9世帯（岐阜・日吉）と対面
	…42年ぶりに旧交を温めた（広報ところ）　＊当時の記録はなし

※参考
＊「土佐郷土史」に、昭和18年度の学徒勤労奉仕隊受入状況一覧表がある。
　＊一覧表の元資料は不明　＊期間は省略

宮城県子牛田農林学校	指導1	学徒37	計38人	延:1,292人
福岡県築上農学校	指導1	学徒40	計41人	延:2,375人
静岡県中泉農学校	指導1	学徒35	計36人	延:1,116人
東京都都立農学校	指導1	学徒27	計28人	延:1,792人
新潟県立農学校	指導1	学徒30	計31人	延:930人
東京都法政大学	指導1	学徒50	計51人	延:1,479人
北見中学校		学徒118人		延:1,180人

※参考　■岐阜地区：河野久子さんの「農作業日記」から抜粋

＊昭和18年8月　北見中学校の生徒3人が河野家で援農作業をしたときの日記

17日（曇り・午後雨）
北見の中学生3人が1週間援農に午前10時乗車、3時頃家に着いた。
昼前に小麦刈り、昼から小麦と燕麦を積んだ。
兄さんが軍馬を連れ、午後10時に家を出た。中佐呂間まで。
18日（曇り）
朝から燕麦刈りをした。1日目、中学生も朝から始まった。
19日（晴れ）
2日目。昼前、小麦を刈って積み終わり。昼から燕麦刈りをした。
7人揃って晩にはトランプをして愉快に過ごした。
兄さんは防空監視硝へ行った。
20日（晴れ）
3日目。林のところの燕麦刈り、昼から8人で刈った。
21日（晴れ）
4日目。昼前7反のところ刈り終わった。昼からお寺地へ行く。
22日（晴れ）
5日目。一日中すごい暑さだった。昼前お寺地を刈り、昼から家の東を積んだ。
中学生3人とも昼から海へ遊びに行った。
23日（晴れ）
6日目。昼前お寺地を刈り、昼から7反のところ積んだ。
小昼からお寺地も積んだ。
寄せてもらって自分たち頑張った。今日も朝から暑い通しだった。
24日（雨）
7日目。今日は一日雨降りで家にいた。食べることばかりにかかっていた。
自分の服の継ぎをした。
25日（曇り）
8日目。最後の1日で、朝少し雨が降ったがやみ、8時頃から裏の燕麦を
皆一生懸命刈ってくれた。晩には餅をついた。
26日（曇り・午後時々雨）
今日は中学の人たちが帰るので、母が弁当の支度をしていたので、
9時頃畑に来た。11時で帰った。

※特記事項

1.「新北見市史 年表編」の「昭和19年9月」の欄に「北見中学校報告隊、12月まで15回、農家・鉱山・工場などへ勤労動員」の記述がある。
　常呂の国力鉱山での動員がこの記述に当てはまる。

2. 昭和20年の「当直日誌」がないので、終戦までの勤労報国隊・援農学徒隊・挺身隊の詳細は不明だが、前著「昭和20年5月」の欄に端野村に秋田師範学校の学徒動員が3回あったことが記されている。このことからして、常呂村でももう少し回数が増える可能性がある。

3. 学徒勤労報告隊として常呂村の家庭に入って農業の手伝いをした宮城県小牛田農林学校・山形師範学校の卒業生たちが40年から50年の時を経て常呂村を訪れ、当時彼らを受け入れた人たちと再会し、旧交を温めたというのは、何かしら良い思い出（労働だけではない受け入れ家庭や地域の温かさ）があったためと考えられる。
岐阜地区の河野久子さんの日記でも、中学生を海水浴に行かせたり、餅をついてもてなしたりと、必ずしも労働力として受け入れたのではないことが分かる。
本州から北海道へ家族と離れて勤労・援農のために送られた青少年たちが数十年の時を経て再び常呂村を訪れたいと思った、当時のエピソードが残っていたらと思うばかり。